

# さい帯血情報

## 「さい帯血」と「さい帯血バンク」の認知度調査(抜粋)

妊娠期の女性500名に「さい帯血」と「さい帯血バンク」について意識調査を実施いたしました。

### 概要

#### 「妊娠期の意識調査」

調査期間：2016年12月7日～12月9日

調査方法：インターネットリサーチ

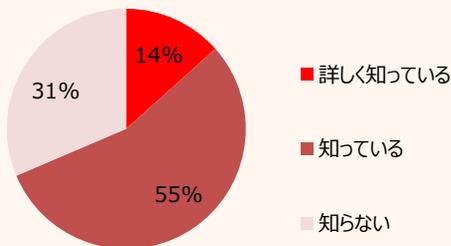
調査対象：妊娠している20歳～46歳の女性 計500人

調査目的：妊娠期の不安や赤ちゃんの病気に対する意識とさい帯血バンクの認知度を把握するため

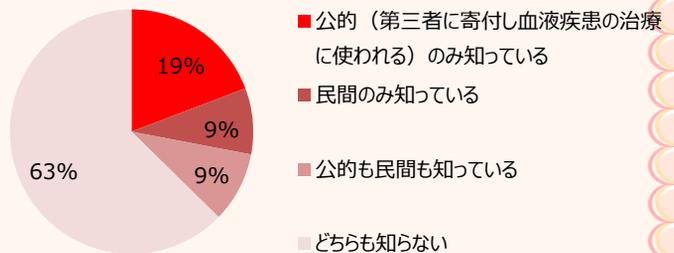
### 結果

#### ① 「さい帯血」は約7割の人が知っているが「民間さい帯血バンク」の存在については、8割以上の妊婦に知られていない

さい帯血をご存知でしたか  
(n=500)



知っているとお答えの方にお伺いします  
さい帯血は保管すること(バンク)ができます。  
さい帯血バンクには公的と民間がありますがご存知ですか  
(n=343)

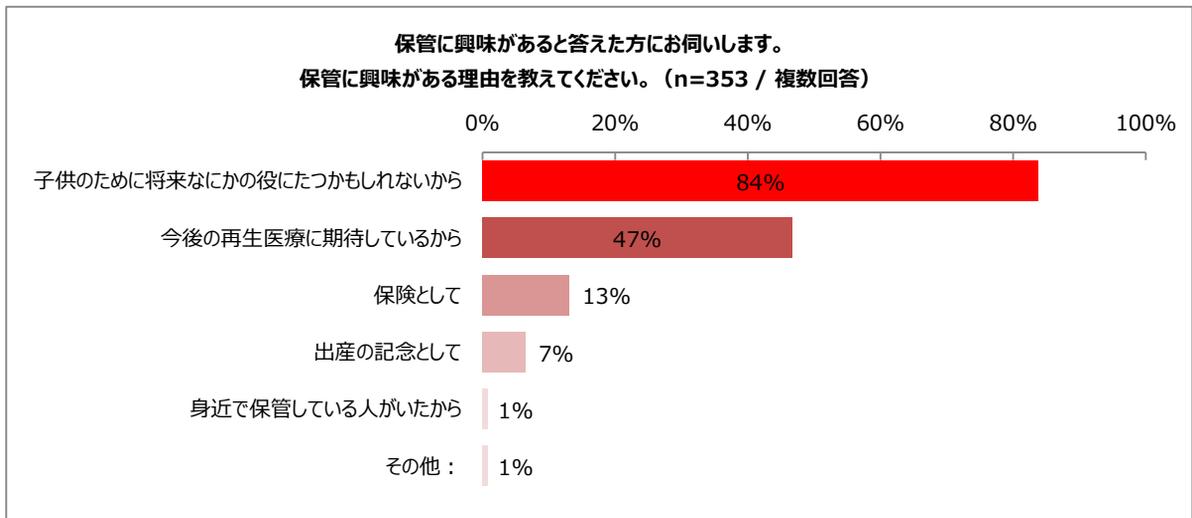


#### ② 民間バンクの目的・存在を知っていた場合、保管に興味を示した妊婦は7割以上

民間のさい帯血バンクは現在再生医療への将来性が期待されており、  
脳性麻痺や自閉症など、治療に対して研究が進んでいます  
このような再生医療をご存知の場合、保管してみたいと思いますか  
(n=500)

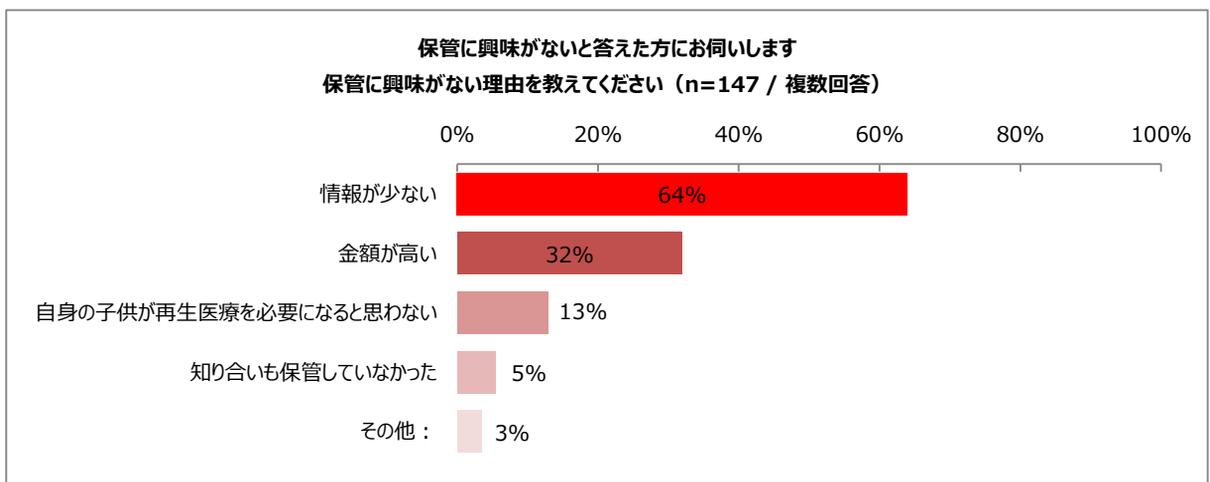


民間さい帯血バンクの認知が低い中でも、メリットを明確にしっかりとした情報が届けば高い割合で興味を示されていることがわかりました。保管に興味があると答えた方々に理由を問いかけてみると、「子供のために将来なにかの役にたつかもしれないから」という回答が8割以上という結果になり、次に「今後の再生医療に期待しているから」が、約半数からの回答を得ています。「役にたつかもしれない」「今後に期待している」という“可能性”に対してでも興味を示されていることがわかります。万が一、子供が病気になってしまったときのことを考えると、母親であれば「できることは何でもやる」という気持ちは当然かと思われまます。



### ③ さい帯血バンクの情報が十分に妊婦に知られていないということが明らかに

保管に対して興味がないと答えた方々の6割以上の理由は「情報が少ない」という答えでした。次いで料金の高さについてが約3割という回答です。さい帯血バンクの認知の低さや医療情報自体の情報の届きにくさが、結果にあらわれる形となりました。また、少数ではありますが、「自身の子供が再生医療を必要になるとは思えない」という回答も1割ほどあります。今後、脳神経障害や自閉症などの再生医療分野での研究が進むことにより、民間さい帯血バンクの認知拡大につながるものと思われまます。



\* アンケート調査のより詳しい内容は営業担当まで